

武藏名所考

夏

L290.3

マ

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

武藏名所考卷二



玉河

梶野陳人編



名所抄玉川山城攝津近江武藏陸奥紀伊久松遠
集之玉川子山久河布子山子歌を武蔵之載之類字
名寄松葉歌林並凡載之

萬葉集之云多麻河泊

延喜式之云武蔵國多麻

和名類聚抄之云武蔵國多麻郡婆

風土記之云多摩郡或玉

又云多摩川出諸鱗及鴨鵝鶉等亦里人作調布納内蔵寮
藤塩草云云玉河外花さける河あり是不限名所於
吾妻境云云可被懸上多磨河水 詳武務野紀

神明境云云延文三年九月十九日新田兵衛佐義興武州
丹波川船中ニテ自害

諸國物語云云あるの女と知りさう表れ障子細く明
多夕日さくさく新まきゆく津さく河さぬ玉川のさう
と細布さくさく近づく葦の用意とや單ある物と縁より
類字名所補翼抄云袖中抄と兼葦舟玉川と云く注
是ハ武務國と児玉郷といふ所より流さ出さ玉川を玉川ハ
いふかり彼川とて存とけくは之玉川の里と外の花と流り

武多野二ノ壺

と云云然れハ顯昭此相換り舟、舟と金糸集千載集と好
の花よき玉川の里ハ兼葦とまつりさくはと流ると
同所となきしれと和名と武務國と児玉郡ありこれハ是
も多摩郡より出流川と名彼郡と云國府ありと俗に
はた玉川といふ和名も是太婆と流しこれハ昔より俗に
いふと同しとの事

梅さうふ袖中抄と武務國と児玉郷といふより流さ
出さ玉川といふ所ハ流りなり児玉郡名にして
上野國と接と多摩郡と敷郡と居る玉川と
於て關繫とありの事

紫一本云玉川矢の渡より六々の橋乃を流る川と

室前一説あり、法谷祥雲寺の末寺は西よりその地
より古き洞の筒と塔出りけり、と年号まゝの齋一書
多波川と有と祥雲寺の住持中々古き祥雲寺に納め
置きしと之を中へしと住持中々古き祥雲寺に納め
しを中々古き祥雲寺に納めしと住持中々古き祥雲寺に納め

楊とふ祥雲寺の末寺といひ、ハ多摩郡多摩村常
光寺の事ありし洞の筒と塔出り今祥雲寺中景徳
院と蔵と塔と敬白僧智賢南閻浮提日本國武
蔵國多波郡定光寺兵大施主上生成恒少施主藤
原氏工藤原守道仁安二年歲次丁亥二月廿一日
庚寅とあり定と常と國音同しとされし洞の頭

よりり楊とたるなり

本朝俗誌志し武蔵國多摩郡の玉川ハ大河より流
の末六郷の邊あり此川の氷ハ大指の腹厚と云はれ丸く
氷りく河岸の枯草かれ葉とらありひく玉の聯けあり
如く只氷精の珠敷と乱きと似たり此川の氷と河氷
かく氷り此故と玉川の名ありとあり

山岡明阿云今考らば氷の玉乃如くありと云々
後の俗のいひ出りしと之流氷の氷いひしと云々の
さうためつしきことあり多摩郡と経て流りし
ある故と云々の入間川もまゝ同しと云々

武蔵野地名考し武西の方甲信二州の山甲より武州

多波山の山谷と流き出く東の方播磨郡の初回の浦
の方と海にゆき凡軍津里矢口の海と比河のよまなり
按とる多磨川の源八甲信二別の中一といふ事
甲斐とては今丹波山といふ詳と後と何とて
甲斐とては今丹波山といふ詳と後と何とて

甲斐名勝志といふ丹波山武蔵國多磨川の源なり倭名物
と武蔵の多磨郡と大婁と注と此地を往古日本武尊
當國へ入る路也今大菩薩通るといふ
按とるたつ川を源と甲斐國都賀郡丹波山と後と
ゆきと名代得といふ郡名を其直帶さる水とては
水名を温觸乃山と取るありといふ事集る多磨延武

も多磨和名抄といふ多磨の作と音とより字と填せ
まてといふ意義あり丹波もまといふ事集る事
あく字の異なるを流しといふて川の源流ハ彼郡丹波
山村の山中より出ると本流といふ同郡丹波村乃山中より
出る二流といふ一丹波山村尾村二村の間と過ぎ尾屋
村法瀬村の間と高尾村小菅村の奥より出る小菅川
といふ一流といふ一鴨沢村の上より出る尾屋村の奥より
出る尾屋川といふ一流といふ一又鴨沢村より出る小菅
村井持村の間より出る一流といふ一は川の上白津村と井持村
は尾村の間より出る一流といふ事
武蔵より入る小山河内村の事といふ事ありあられ出る事川といふ
一流といふ一原村中山村の間より出る水根澤川といふ

一流を合し、まゝ氷川村あり、山の方秋友郡より流れ出る
日赤川と云一流を合し、又棚沢村と小丹波村のよりを、少乃方
峯村より流れ出る一流を合し、又丹三郎村龍壽寺の間
にて南の方御嶽山よりある一流を合し、又川井村沢
井村の間より、少乃方大丹波村よりある大丹波川と云一
流を合し、又澤井村二又尾村の間より、少の方より、流を
知る平溝川と合し、それより青梅村の南を流る、駒村
の東南多花村二宮村のよりより、西の方平井村の奥より
出る一流大久野川と云を合し、佐目高月二村の間
より、秋川に合し、秋川の上二流あり、山の一流は、いまは、流を弾
よせ、と南の一流は、いまは、流を弾
よせ、と南の一流は、いまは、流を弾
又東南よりある、数里石田村と一宮村との間より

秋名野二四

て大和国川と合し、大和国川の上二流あり、山の一流は、流を弾
よせ、と南の一流は、いまは、流を弾
よせ、と南の一流は、いまは、流を弾
あられ、府中北南と云く、それより数里北、南より
合する細流あり、有り多摩郡中島村と檜樹
郡登戸村の間より、三河川と合し、三河川の源は
於龍郡墨川
村より、かく諸水乃合流する、かまを、大河とあるを
さらなり、今郡下水利乃流とあり、く、水を作
くもの億兆と云、於実と、南側の名水といふ、登戸より
下南の地方福新園といひ、数里より、く、檜樹
郡に属し、少の方より、多摩郡に属し、於龍郡に属
し、は地方、下野毛村より、羽田村といひ、く、く、
多摩郡の名、此川より、せり、く、く、く、く、

讀人志く次 萬葉集

多麻河のさきほたるのうさくら

同 拾遺集

玉河のさきほたるのうさくら

伊勢六補 支本集

玉河のさきほたるのうさくら

藤原家隆卿 建保名所百首

玉河のさきほたるのうさくら

玉河里

名寄不載と名所抄 類字松葉歌林載せしと名寄不載

先達奇枕玉河里者奥州在之其奇悉載彼和年但
近代奇多尚因玉河里詠之名所抄の六攝津と載せ
陸奥因名もと流し

建保名所百首玉河里因名を流せしと志くれと毛乎の
より此奇の六本國の事 昭るり

名所方角抄の云多摩河里

按と云に今玉川郷の比企郡とありと大橋腰越の軍
沢妻原玉川根等々の教村流しと云ふことな流し
さし流しと云ふ流し多摩郡なる人々今大丹波山丹
波といふ二村あり丹と多と通し波と摩と音通しと
まは是とむくの玉河乃里なるんれ近き武蔵

國調紺布九十端縹布五十端黃布四十端自餘輸絶
布庸輸布といふも此れなりとせしむる也

藤原定家郷 建保名部百首

多作やさしん垣根乃船森成法くねきとらぬ玉河は里

前關白 藤原道家公
新勅撰集

くふより八波くかりとく甚なむとや垣根乃玉川は里

向岡

名不抄類字名寄 松葉歌林並く我と名寄抄の源

一説は河内

萬葉集と云向岡

萬葉集

風土記と云多摩郡北限向岡

又云豊島郡北限向岡

按と云向の字恐くも恐の字此誤あるん説恐

岡の字に詳あり

藤原集と云むつひの忌

名所方角抄と云武蔵向岡

名所補翼抄と云新勅撰十九は小町ら武蔵野の向岡

とよみ外名名寄と云

武蔵野地名考と云玉川の流と少く帯く西は小山岡乃

関よりけりまらなる末長の里と終まり名の長程六里河

まりむきく南ふむより多摩郡橘樹郡のうらぬり

江戸砂子云向岡を松平出雲守及榊原武邦大捕及
扇谷邊を云む一也向岡^{今の上奥州への街なり}の街なりそ
の道より他と云む一也向岡^{今の上奥州への街なり}の街なりそ
江戸志云向岡榊原家扇谷の邊に云江戸砂子に山町の
砂子引く此変と云む一也向岡^{今の上奥州への街なり}の街なりそ
考ふに此変と云む一也向岡^{今の上奥州への街なり}の街なりそ

四神地名録云享祿三年上杉朝興玉川を流す河を
陣一山像氏兼向岡の小澤の系に屯一也軍府中
にて合戦一上杉方敗軍せし事軍書に記し有る故
里人其事跡を尋一に委一也知者人ありま一也
それより此変のるも知者なしと云む一也又いふ向岡と

いふ名を玉川より南に在りとのといふも実証なき
次多磨郡乃名所なり

按とる小園東治乱記小享祿三年上杉修理大夫朝
興河越の城にありたり小回原の氏綱退治して
先年此処を雲一とて云武州府中より出陣し
て多磨と聞えたり氏綱云息子息新九郎氏康を押
向とる云同六月十二日上杉の陣へ押寄せり所を
武務府中玉川の端小澤系と云変へ押寄せと
あれと向とるなりと云む一也向とる書し
何と云

按とる小園之記に北限向岡と云む一也向岡より南にあり

とて六方位ありては僧亮盛寧巡禮記の序に狭山とて
向國とせること（主統狭山の
りよあり） 風土記の方位より多し且多摩入
野の中圓の一堆とありて今もこれをまきと都界とせり
これ八向の國八所ら狭山乃一名と地厚ゆされと志けり
四喜説と後ひく別とこれ紙載と

榎本人麻呂卿 弟集

出くまぬむらた島の志けりとされり花のなほ

小野小町 家集

むらた島の向の志けりたれは福成たりともありと

隆源法師 歌林名考

夕自す向の志乃郭云雲のとてたをり

後鳥羽院御製 御集

つたふ向の志れ山松と月ゆるま

同

松と志れむらたの志れ夕涼秋よりはまに風を

藤原定家卿 愚草

夕自向の志れ志れむらたの志れむらたの志れ

同

ひたへて向の志れ志れむらたの志れむらたの志れ

藤原家隆卿 弟集

あつらひむらたの志れむらたの志れむらたの志れ

藤原知家卿 續古今集

秋のしづかにもささるるもみぢのささるる白雲
藤原為家卿 十首

夕陽日よりのささるるもみぢのささるる君ちとせ

同 歌林抄

夕陽日よりのささるるもみぢのささるる君ちとせ

皇后宮女房常陸承久四年百首

思後さへ向のささるるもみぢのささるる後

藤原信實朝臣 文本集

山吹のささるる朝臣もみぢのささるる君ちとせ

後一條道前左大臣 藤原實経公
文本集

秋霧此後同代もみぢのささるるもみぢのささるる

藤原光俊朝臣 文本集

及のささるるもみぢのささるるもみぢのささるる

源邦長朝臣 新後撰集

及のささるるもみぢのささるるもみぢのささるる

藤原為実公 文本集

及のささるるもみぢのささるるもみぢのささるる

よみ人

鳥のささるるもみぢのささるるもみぢのささるる

狭山

類字名寄松系歌林並示裁す類字に況河用名寄抄載せし

山國紀行のまゝを讀み其國といふ所はありて武彦野
と名付る所野原のわたり名は國といふは山有野の衆
を名付る所なり不わりのある所の名をかくし斗ある地あり
名山方角抄に武彦父山の嶽の西の山あり山背をえた
ことありありと名を記す

武彦野地名考に武彦郡箱根崎のまじりといひ
この山の東をさびといふを裾といふ西をちのむ移入はま
しりといふ所の地ありわたり二十町といふ所の地あり
嵯山記世音順礼記序に武彦郡の中奥に
さびといふ多摩入間の二郡に跨るゆゑの名といふ風土
記に載る所の向丘あり丘の西隣の野に記するにわたり

丘といふゆゑ古にわたりといふ

武彦遊草に武彦山に武彦をさびといふ義あり
わたり然るを武彦といふ所の名をさびといふ所の名を
より挾と書くも武彦といふ所の名をさびといふ所の名を

按に武彦山に多摩入間二郡の境ありて多摩及武彦
の境に列せしむる武彦の山に一峰をさびといふは武彦
といふ所の名をさびといふ所の名をさびといふ所の名を
おし武彦の山をさびといふ所の名をさびといふ所の名を
獲まゝその如きを武彦といふ所の名をさびといふ所の名を
さびといふ所の名をさびといふ所の名をさびといふ所の名を
いふ箱根崎に武彦山の西南の山ありて今も山嶽といふ

隸と山台領ち多摩入間二郡の繋り多摩より属する
もの凡十八村入間より属するもの二十八村を狭山の麓に
散在の山台よりを狭山の口より北より南にあり居
こしく向國を全くは狭山あり一余嘗て山台領部
堀村の親善堂よりありそより山徑は急して狭山を
清い箱根越えたり一に折しも映山紅の咲き
咲きわきりありやむやむのむもすはもとに
ゆいゆいゆいゆいゆいゆい

大江匡房卿 新後拾遺集

ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
藤原顯季卿 千載集

五月園の障子の火を雲の絶りのり

後鳥羽院御製 續古今集

秋風いさかひに花葛きくや

狭山池 一名箱池

名寄狭山の下に池を附一或河内と載と松平の第
池と載せ又狭山のりも池と注と類字秋林の池と
揚々はその秋に狭山の下に載るは名寄抄載せと
八雲抄抄と云ふの池を第

交本集と云ふ年の池河内又丹後或肥後

山園紀行の山台のりかいらりあり

江戸砂子云俗溜池と号すの狭山の池と老案に傳ふ
此説をかくしと云熊谷宿より石原宿の右の方を程定
りしより太田良言湯射玉井十郎の齋治ありけ右の方山
のたぬ山に池あり田丈ハ龍尾の元山といふ美談の親世音ありカ
士門の額ニ沙山の二字ありは遠く同く池ニ西あり一西
沙山のかしらにありと云龍生を成まり一西を嶺山村藩派
龍尾村郡の田の中と深に池あり宗祇方角抄に程父
根山荒川沙山といふ名ありと記せし右の西と云
るをこれと考ふる溜池と狭山の池といふも是つゝまた説あり
武蔵野地名考云と云やまの池ありちうり二十町と云りこの
池と云と云傳に云と
云えたり

又云久米川と云細き流れありと云ぬと云ふのと云教して六
七里と云く入間川のまゝに合流と

武蔵野遊草云程根を流るといふと云ふ此池と程と云といふ
田池ありと云る狭山の池といふ草葉の名ありといふこの池
乃たさ凡十町四方もある一四方皆山林して池の方ハ武
甲の遠山雲は程東水の園ハ則狭山西水の極りなり南
ハ林は隅々程葉の大畠ありかくまて奇観ある池今も
こもくく芝村と云ふ一池の形はとほとほに存せり芝村
北東のこもふよりと云三十間ありの池ありと云に跡あり
中洲と云天女祠あり此池の淵と云来由は土人の園に
昔年此村に次郎と云湯といふ土民と云りおろし夏の

頃矣熱うたえうぬ此池と浴せし時小蛇来りてかみ此
の頸とすまふとありう移くかこましく蛇とさうすまふ
喰きりてその幸きありて岸よりぬえりうらたか乃
半断よせし蛇とさふき蝮と變て死しるよし次
才と池あり洞湯と今ちこのこくなれりるると草葉
も今此池より移く此狭山のほき宅部村小沢といふ
池と多し又山あり道の肉垣といふ村乃四池も
ありし

按じると狭山池一名箱池といふ箱根の傍に在ゆと
ありし松葉集別と箱池と掲ぐる名の変りゆ
しやとの實に池かろき疑ふなりしその地形は石氏の
武野遊草にこれ記し居り余これ遊したる地は年々
畑と記し居りるゆゆまを牧羊の後今此池の傍に
こころありたり也やかりあり

よき人志し古今六帖

慈母とておぼゆる池のみつとてひかえとせしれを名おぼゆる

藤原仲實朝臣 交本集

春ふつとおぼゆる池とぬぬおぼゆるとてけまなくかひのた

藤原定家卿 愚草

凍れとておぼゆる池とみくろも春のありたり

藤原季能卿 千五百番歌合

媽とておぼゆる池とみくろも春のありたり

藤原隆祐朝臣 夫木集

とくさふたの池の傍に かげのひまわりまはる御のいと

ト部兼直宿禰 夫木集

あやふふと一宮の池の傍に かくみたりれはるるを

藤原光俊朝臣

燈籠の傍に 池のほとり此れはるるを

兼惠法師 北國紀行

氷の傍に 池のほとり此れはるるを

和經法師 夫木集

冬ふたの池の傍に 氷のほとり此れはるるを

小山田關

松葉の裁と名取抄類字名寄歌林載せん

夫木集と云ふは此の関武彦

吾妻鏡と云ふ小山田三郎重成 文治五年

又云小山田四郎小山田五郎 文治六年

畠山系圖と云ふ小山田別當有重小山田五郎行平 平一作重

太平記と云ふ小山田太郎高家

武花野地名考と云ふ関戸小山田此関とよまはるは此の

處に 此里の山は此の山と云ふ小山田の庄と云ふ関戸乃

うしろの山と云ふ関の山は此の山と云ふ小山田の庄と云ふ関戸乃

まはるは此の山と云ふ小山田の庄と云ふ関戸乃

わづらふ陪れ軍やあけしき英雄の人々あわくはくは
こころをあしかりし冥戸の府中より二十町より南
にわづら河の向のきりよらる里なり津戸三原四原も
けりしり石田といふもりの山あり

四神地名縁と云冥戸村といふも多摩郡のうらわく
玉川の南に在古名とて古く小山田の國と稱し國の
古名といふ

余嘗て舊記とていふ國戸村とあり小山田の國址を採
りしに主人とて紙知のあり相沢休那源氏傳つと稱す
建つて五流と号す
久々くあはれけり好古の癖ありとて一ふかかれしを
國とて是まに知るに今村中ふ古城址あれは是とて

國址と附會せしむらんといふりゆゆも國戸日野の古名

を屬し小山田庄の外るれは是とて小山田國とい
ふとい雜し吾妻鏡元久二年乙丑三月廿二日の下り畠山
次郎重忠叅上之由風聞之間路次可誅之由有其沙汰
相州以下被進發軍兵悉以從之云云關戸大將軍式部
丞時房和田左衛門尉義盛との世太平記新田義貞起
義兵條に新田の人々旗を奉り上野國小起り武花國
へ打越ると國々の將軍は定て鎌倉をへたも待給す
國戸入間河の辺ふ合てを防ぎ強んといふん云云又鎌
倉合戦の條に鎌倉中の人々の昨日一昨日までも分陪
國戸の合戦もよく勝方打負ぬと載はけ二書しを冥戸

どのく小山田の園と稱せしるものも況や今も小山
 田在りまこと園戸はこれに屬せしめて吉富庄に屬せしむ
 ちるいぬ小山田園といひはは園戸にそありし事
 必せり余又おしらく今小山田庄に屬せしもの十村大森村
 上小山田村中津田村並に柳蓮光寺村蓮光寺新田柳下
 小山田村金井村能谷村山崎村以上各村金森村本所これハ
 小山田園ありし必上下小山田村の内ありしとせしむ
 是れは福祿く園地探せしむ二村乃内園ありしとせしむ
 傳せしむよりた下小山田村とあり大泉寺といふ禪寺
 の地小山田太郎高家の城跡ありと傳ふの事なり河合
 某の園師村抄ありしに小山田園を園師村のうち柳本庄に屬す下
小山田村に隣り

大森院といふは修験者の先墓の所なる所を記あり中古
 藤園法郎某住居一園のりをもつしとせしむけるは藤園
 の園とも稱し古き府中より相模園への樹をハ山形路
 町園師村本曾町と稱しこれハ園師の園あるも此處あり
 といふり園とせしむ今園師村にハ庄名ありしとせしむと近
 村多く小山田庄ありし古き此村をたれしとせしむあり
 しとせしむは園のありしといふもひさことせしむありし
 於後の考証材の事又小山田園といふは藤園と稱し
 なるんといふ説ハ田園雜記より附會せしむの事ハ
 しく藤園の下に辨しとせしむ

又云横山庄大膳大夫建曆三年

武藏七黨系圖云横山黨小野氏横山大夫義孝武藏權

介始住武州横山

又云村山黨平氏横山五郎家光

武藏志料云云山今青梅郷横山村ありそのことり於

梅郷に青梅郷の多し横山村といふあり國圖に多く

青梅新町と横山町とあるをり青梅の東に村山

村ありのりこれらもや混へん

又云多摩のよと山多摩郡にあり地名なり横たをれ

園といふをまゝ郷名と古に降戸といふ多し和名録に

と見えりなすよとあるを是を即いぬるの降戸ハ今もあり

班固の時割りまをり西中と改いぬるやあらん今もかく

いふ地名まゝと見えり今もかく今も梅と横山村といふ有云

又日本紀安用紀横澤ありその西もや

武花園郡村記云多摩郡横山町

按とるに横山とてその詳あり今多摩郡に横山庄有

八王子の南にあたりこれに属するもの大谷村武山郷小宮領山

田村総領の上柚木村下柚木村落合村柚木領中相系村下相

系村赤系村散田村下を分形村大舟村松系村小比企村寺

田村小山村領凡十四箇村ありまゝこれの北の山まで

もあるや又八王子に横山村と云われと原考韓いふこれ

り小宮領横山よりうたり村といふ八王子北元八五

予より移りてはと同時かぬハ古きものには河内
山より今横山といハ地名のまじり大石氏の信を神護寺
といハ城址のある山下ありハまじり也ハ二里許あり
其のれとも古歌によリ横山といハ地をいふといハ
りも横山といハ横山とせハまじり也ハ大石氏の
於後の考証まじり

漢人志ハ古事集

山名考証

宇遲郡黒女豊後郡上丁掠
隣郡荒虫之妻

あつた

藤原顯仲朝臣 堀川百首

明く此みそらの外にかとまじり也ハ山あり

横野

名寄と載と又和泉上野とと載と同名有とと名所抄
類字松葉の上野類字松葉と又玉横野 和泉 新拾遺集
徳人不詳の
歌一首
と載す 歌林載せと

夫木集と云横野近江又上野或河内と云と云と
乃河内

日本紀と云安閑天皇元年閏十二月武蔵國造笠原直使
主與同族小杵相争國造云云謹爲國家奉置横渟橘花多
氷倉櫛四處

勝地吐懐編云横野堤類字名和泉系其れの横野乃堤

風をさく入地をさくふる等之仁徳紀云十三年冬十月

築横野堤延喜式云澁川郡横野神社延喜式より仁

徳紀と按とるよ横野堤澁川郡於難波宮にましく

これ八尋に河内攝津の國の供ありければせむひと堀江

をさくせむの合きくさく〜和泉の横野ふるまき

物と見えて事なり〜

又云横野類字上野紫井ねとよと此のつら董生と袖より

つらん色もしゆ〜は奇と系葉第十にはこれ根とよ

横野の其れ根とよ若くははく嘗あつ是をとりて流れ

よりけ上りかさ〜の山羽のひの山佐保山とよ老る

奇に交りてゐるは横野も上りける澁川郡の村かして

物ほとそ上古の人へけぬ國へぬ西と云る意と云の歌お

りき中とるに廣く物とよとるやうに此外に初とく徳と

けさるはふはとるよ上野の名よめる奇にるへ〜ゆや

武蔵志料云は説こよれ八丈本抄云の奇は云か按

津國澁川郡の横野をよめ奇或はそれととり

てよめれと當國の奇とす〜は但〜武蔵志料と

は案と昔より讀あり〜これこれ等の奇もは案に

ひるれ〜は國の奇とらるゆや

武蔵志料云横野ハ上古乃よ横山のり〜りやあらん

又云八雲河抄字紙勅撰名部抄藤原家よ上野と有

又藤原系と和泉と有横野院ハ和泉と有今櫻木系
と後子系多しねとくハ武彦野の肉乃一名於たまの
横山と後子と有和名抄と云々一横野あり
又云木抄玉回横野有河内之と物と云々如何
横野に横野と云々詳あり今多摩郡と横根村
ありのとねと有國音通と云ハ横根村と云ハ横野の
横野なるんともいふれと云地と横と云と云々も分
かきはそと後考と云々あり

藤原家隆卿 秋枕名寄

雲と云々本抄の本ありと云々いさよのよと時と云々れ始と云

漢人志と云 新拾遺集

終夜そのむり試みくとなり玉の横野の 秋乃月之け

頓阿法師 草庵集

此と云りおけらうらる白雲の玉の横野秋のこの路

右多摩郡

荒蘭崎

名不抄類字名寄 松葉教林並と載と

名不抄集と云荒蘭乃崎

拾穂抄と云所かけの河内之と云一云みさうのうん
と云産の先荒蘭崎武彦也並と云八雲抄と武彦也
一云みさう武彦横と郡所扱あり

藻塩草と云荒菴崎武荒

田圃雜記と云芝の浦といふ所とあり久保の塩屋の烟
草とありひきとく物といひきとく志田といふ舟次といふ此
浦とあるとあり井といふ所

小回原北條の限帳と云五拾三貫六郷内新井宿梶
原日向守

紫一本と云小川大森の巻乃波打きり紙ありの崎と云

江戸砂子と云荒菴崎鈴森の磯也

武蔵野地名考と云荒菴崎在る郡あり井宿不入斗
村といふの海邊と云未考

再校江戸砂子に云あり崎ハ今の小回原山あり

荒井宿村のうらといふ此山往還とく相州街道之宿場
なるなりといふなり

武蔵志料と云品川の南西に新井宿あり此所あり

江戸志と云荒菴宿鈴森の磯也

四神地名録と云荒菴宿古く此所海邊とく往來ハ概
雲寺といふ寺のうらなる岡を通りせしとく古名を荒菴
崎と稱せし當國の地名を定家郷の寺有りとい
傳の拍とありなり弘昭の判とありの崎とあり定家解
の舟傳とあり磯と崎とありとてよめる事ありといふ
是れ里人乃古きと付持ありてんを書と有り
端也なり

北川一善云荒蘭崎崎玉郡笠原村の北にあり今新井村と云
按ずる不此況いふべしと暫く後考まをるべし

按ずる今此池上街道八景坂一名茶とあり右のくさし松
重寄といふ程利と隣に本末氏の跡ありうらうらの山
と本末山と移とむべし此官道まこの山の上よりて所謂荒
蘭崎是なりと今も土人のいひ傳ふさらば再校江戸砂子
に荒井端村といふもあなれば磯の名の残り一ありてかく
てを獨りあらんのかきまよくわらふべき

源家長朝臣 後後撰集

志々波のあゝわれ磯のそわれ松かゝるぬをこ人せつれふに
藤原信實朝臣千五百番歌合

志々波風あゝわれ磯よる波のうらもたあまの今を遠き

今出川院兵衛 支本集

志々波浪あゝわれ磯れ波風と吹よせむねく鳴るふるる水

道興准后 田圃雜記

志々波あゝわれ磯あゝわれ磯のうらあまの今を遠き

荒蘭磯

松葉に荒磯武蔵春雨抄といふ尚國威未勘といふ名雨抄
類字名寄歌林載せんと

支本集よまあゝわれ磯武蔵

江戸康子に云荒磯松ハ冷森山よせま在池上の道助也

江戸ありまゝ荒磯の松後の森の磯の松瀬風よみてあふ
こゆりーろー

江戸名勝志に云麻子の昔荒磯松林森山よせに在池上の道
とらふとはいゆるこの松のり次流るれ名取志に松林の磯
に存と云記とよーとん

四神地名録に云磯別松と稱せし松の大樹今の熊野
権現の社迎くまうふ十年より一木より一枝こふ枯れ
出ふより地頭よりまきりと権雲寺よあらる今白く
了くちの什物と云磯別松と稱しと名なき松を松別
須磨浦に在り同名あり此松もあらる事よ此西ふ古ハ
蘭教多生せしゆ急にあら蘭磯と稱せしよーといひ

松と云荒磯磯夫木集り載れれも後の世の書よら
荒磯の松とのと出より今の松林と名ふり昔は海
中ふれハ磯といひていふとていひ一本あつといひ
の磯別松の切株とて今も存せりさて寺のうらふ
寛文四年甲辰木原義永の建てし碑ありそれよ
荒磯崎之磯別松是ことしとて磯と稱せしハ此
山の裾らる事必せり

藤原季能卿 千五百番歌合

松きほ浪あそ弁の磯乃岩よ押る松まほにる袖のうらふ
裏と云顯昭判詞云荒磯崎とよらる寺よあらる
付れハ何らるの磯も付らん磯と崎とあかす

よりの事なり〜と〜なる所や〜なる所〜なる所

笠嶋

松葉小歌と名也抄類字名寄歌林載せと

美事集と云笠嶋

仙覺抄よ笠嶋武蔵

八雲所抄よ云云〜由武蔵

交本集よ云云〜由武蔵

紫一本よ云云笠嶋〜武蔵川大森の邊の波打
きつ波あ〜る所と云

再按江戸砂子よ云笠嶋石の邊居沖あり〜八幡古よて

相のと残り〜る寶永の大地震におきて〜り〜とをわその
ゆと水沖の〜なり〜一説よ笠嶋の神社の邊居あり
とのよ笠嶋と笠嶋と一社といふ又笠嶋の社を修〜り
ともいふ又〜り乃祠の〜り〜波當社の境内〜りはす
と云

或書よ云笠嶋八幡の境内に池あり縁の池なりその中れ
る由は笠嶋と早〜とこれ古歌〜りよあるあり并〜るの笠嶋と
りる是なりとのふされとの地の〜はいとせ〜り〜て且ふ
る〜地〜集〜と〜る〜る〜は〜る〜

近藤孟郷云今笠嶋の邊に〜り〜海〜り〜あり八幡の社
あると云〜りの〜る〜平〜り〜の〜り〜と〜る〜る〜る〜る〜

仙よりあるもの崎の笠島と誦へるやうに

北川一善云は笠島を崎玉郡笠原村とあり崎玉村より一里餘東南村内と

吹上あり一町四方もある一慈母の神社あり是笠島也

按するに此説まゝ取らる

按するに荒蘭崎今の新井宿とれと笠島中と異なる
ついで於森八幡と社人のいひ傳へて延喜式に載せ居
磐井神社とをばむらゝ海中の島とやありし近藤
益郷の説後へきと仙より

よき人志はあま集

あかひのちと井北崎のかういふとんはや若く記し居らん

藤原為家卿 夫木集

秋の夜乃あるもの崎のかういふとんはや若く記し居らん

右在原郡

忍岡

名簿に載と或る河内と同名ありといふ名西抄より忍岡
河内信実岡陸奥類字に河内一説武州と載せ陸林松
華とよ河内と載と

八雲海抄と云志の心の吾武翁

夫木集と云忍の乃と陸奥

藤原孝と云忍岡河内

小園紀行と云忍の岡油井橋とていふ此記も忍の

本條の毛いり

又云武彦時之在比さうい思の園と優遊一侍法座社
五條天神と侍りくさうい一侍る芽と燈侍り

田園雜記と云次の日淺草城と云く新羽梅とるし新羽ハ
那統那とあり

西よ押のしき侍とて名をいともなる中と思の園といふ

と松ふれまけるさういやと云く城と云く山名川と

いける西よまうりく

名所方角抄と云思園 向島の
りは裁

續無名抄と云思の園といふ所の東敷山寛永寺あり南

光坊慈眼大師の開基たり寛惠法市の紀行と十二月

の未つとて武彦の志のいのみよ優遊をり彼所の侍ると

思條の天神と云いんや侍りと書り

江戸抄と云思の園東敷山の思名と

再授江戸抄と云思の思古城といひり大永四年甲申

正月上杉朝貞の家老太田源六郎金身源三郎五郎

て小田原に通一相園と定む北條氏綱一万五千餘兵

を率して武彦時の城と云く城と云く朝興八千餘兵

とて思川まきく押玉お執人はおふうら負て引くと氏

綱續て城と云く一侍る相真と云く思の園の城と云く遠山

誠の城と云く氏綱翌日城と云く思の園の城と云く又云

四郎左衛門と云く思の園と云く思の園と云く思の園と云く

思の園と云く思の園と云く思の園と云く思の園と云く

名をかねていつまう非なるん或人のいへくも一姓の出
城のこゝ上野の地こゝもあらんうぶ川へ押出ると又出戦
氏綱一軍もく首実檢せしとあるも赤坂よ今一木とのふ
西あり是も古き地名のよゝるれは函根もむよと申とあり

按とらん関東治乱記も大永四年上杉家老大目
源六回源三郎謀叛と起し一山田系最と訂合相圖と
定りしうを別時刻を移さし山條新九郎氏綱伊豆
相模の軍兵を引率しして江戸の城へ寄のよ江戸乃
城主上杉修理大夫朝貞居あしし敵を誘ふ武畧
毒手し似たりとて品川へ打出乃ううく敵を待たしり
去極よ山田系の先陣と上杉先野曾我四郎と品

川の筋言繩の筋よそ録合せ云云上杉忽よ打負て
江戸の城と訂合云々朝貞終ころえう録意よ今れハ
城を閉く回國川越へそあひたる夜雨けしは氏綱
敵ハ子あしりしと見えゆそ追拂く討て板橋迄まで
勢を流るし高杉兵隊追討しこそせしれたるそ後
城へ打ち入討たの首実檢ありし一木系一終先打
立云々江戸の城は幸山四郎右衛門と銘らましく山田
系にゆとあれと武義野の城忠國の城の沙汰ありし
恒是形う引くるも何のまらるやおのよは是ハ江戸の城
との城避く武義野の城と作るた忍ぶ國の城と
いふ處をも治乱記も江戸の城と作るうううと

按るるに北國紀初回國雜記等之據に忠國の事云々
今の東叡山ありの地なるなり。但風土記に多摩郡
北限向國といひ又忠國郡北限向國とあるを忠國郡の
北限恐くは忠國のかきかきなり。今忠國郡に二
郡の邊に荒川を流す忠國より入るる。今忠國郡に二
ていふ。忠國郡に今忠國のくもあはれいといふ。これと上
州にあり。松方尾久に河島のあり。荒川の入り。これと
大なる治なり。これと二郡の邊に忠國のくもあはれい
又上州のくもあはれい。根岸といふ地のあり。荒川忠
國の根をなす。これとす。

前齊宮河内 堀川百首

忠國のくもあはれい。根岸といふ地のあり。荒川忠

藤原範兼卿 夫木集

忠國のくもあはれい。根岸といふ地のあり。荒川忠

後惠法師 家集

忠國のくもあはれい。根岸といふ地のあり。荒川忠

藤原俊成卿 夫木集

忠國のくもあはれい。根岸といふ地のあり。荒川忠

賞實法師 新後撰集

忠國のくもあはれい。根岸といふ地のあり。荒川忠

藤原知家卿 現存古帖

忠國のくもあはれい。根岸といふ地のあり。荒川忠

友原富家名寄

人あひのあひの思ひかゝる事ありあまふた神ありぬらん

後九條内大臣 友原基家云
友本集

よひの思ひかゝる神ありあまふた神ありぬらん

頼圓法師

あひの思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる

印宗法師

あひの思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる

後押山内大臣 友原基家云
續古今集

あひの思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる

竟憲法師 山國紀行

あひの思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる

道真准后 山國雜記

あひの思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる

忍社

名寄小裁と名寄抄類字松葉歌林載せと

枕草紙と友本集八忍の森

八雲御抄と友志の人の杜陸奥

友本集と友志の多乃森陸奥

山國紀行と友志の思油井島あといふは思ひかゝる思ひの森

ともしよ

名所方角抄云忍の園森

江戸志云忍杜 方角抄を引
手紙をよみたる

武江披沙云蜘蛛糸案集云東叡山の六極野
又云忍の園といふ也池八丹穂の海をうらうこく也池の
向と八忍の森といふなり其森も今八おろくの大名く
の屋形の地とあり

樓云云名所方角抄云忍の園森とあり云くこれを忍
杜八きくら云忍岳の杜とてふ如き語云く池の面を忍
杜といふ説ありと忍川忍橋の勢ゆく遠く階舎をくみの
くあらしや

藤原経朝卿 文庫集

名所一抄云忍の園森のみちを此といふ時あり云く

顯昭法橋

云く一説あり此等風云云云の事の本橋の林やまぬん

よまへん 一説 歌枕名寄

人志れと河内建と云きくはく我れ忍のこの森の夕ぐれの夕

霞關

名所抄名寄松葉歌林並に載と類字載せと

風土記云在原郡東限霞關

文庫集云霞關 國名を
記さす

藤原草云霞關武蔵

田園雜記云々此河より北より南へて云々名々云々一帯の
軍を懸て云々此園をこえりて云々此河より南へて云々
名々方角抄云々此園西より南の園あり此河の西より富士
云々此河より西より川なり云々

紫一本云々外橋田の所門をゆく此所門より南へて法皇
氏松平綱晟の屋敷と松平右衛門佐光之の屋敷の間の道
城のゆる坂を渡る矣と云或人云此より南の方乃坂虎
の所門山王の所坂と須山の園といふ云々一帯なり云々
古名相馬弾正昌胤の屋敷と海より岸の松竹あり
云々云々一帯なり云々云々一帯なり云々一帯なり云々
云々云々水色長天と云々云々

江戸砂子云々此園往古奥州への往還ありといふ
求源雜記云々四谷大木戸往古の所此園この大木戸あり云々
奥州往還大木戸武州の大木戸とて往古の園なり云々
武蔵州地名考云々此園往古の所此園往古の所此園
郡あり

江戸志云々此園往古此河此山と云右大将頼朝天下
と治め諸國の守護をこえりて云々此園の地頭をこえりて
名隅田川此園の所此園の所此園の所此園の所此園の所
江戸太郎重長云々此園の所此園の所此園の所此園の所
社傳より云々云々

又云麻布橋田町此山橋河より此園の所此園の所此園の所

地の比此所と移さるべし

又云大木戸を鹿園といふの非なり大木寺の山号を鹿園
山といふより何やまるなり大木寺ハ元鹿園近邊に在後
此四谷と移るよりあり今以山氏を鹿園山といふ

武藏志料に云鹿園の西首を考ふるその據なり武藏野
の曠野といふ江戸の近邊ハ山川の險阻もあけまへり
そととも知つては至るも本館にても穴門ハ山河の
險阻要害の所とまうけおくるよりあるとさる所方てなり箱
根碓氷の如きこれなる要害の所と今俗に傳へ様圓と
此名有と今その所とさるる所を鹿園山と云ふ所とあり
又或云四谷大木戸の先大木寺を鹿園山といふ所の所と

又麻布を山福所との所といふ所の所と云文ありま
し毛麻布なる所ありと山丘のある所の所とありとや
ありんと思ふと毛麻布何の徴をかりたりと鹿園推の所は
てその益ありと

江戸往古圖説に云鹿園舊址今藝州彦根筑前彦根の
わたりとあり傳へ云往古藝州往還ありとその方海ふ
はき遠く瀉まき岸の松生ありとありとありと鹿園
の云渡橋をさるる鹿園村と云あり此云云鹿園のありとや
を謂ふ宗祇云西の方高く富士と云と東の方川流る
と有田園雜記に云鹿園を越く巖窟といふ處有と
云云況遍くして一定にありとありとありとありとありと

里を二子降威より及る地境より昔を今に改り世傳り
物傳りて蒼海桑田の變かたよあはれ今編りて其年
多しこれハけり古く是處より陸奥の往復の地にお遠
有まし一其境の海を考ふる外樺田西南の方高く富士
を坂より又赤坂津門より向ふること餘程の坂なり此
地より高き如く長山とも云ふなり也

按とるに江戸志武務志料の記よりみせるに似たり風
土記よ荏原郡東限を鹿園と載るを今此樺田の鹿園
と云れハ荏原郡より東にありて是の疑われと風土記の頃
ハ樺田赤坂とも荏原に属しこれハ今の鹿園よりよく方
位あり名所方角抄より西の方園あり東向乃西をれハ富士ハ

かえりといふなりといふに陸をとて一紫花ひとのやハ遠
くぬ書けり古く相馬昌胤の屋敷ありて毛海より岸の
松生所りてりよ一舊記よりかえりて載るより東限
鹿園といふる疑はれ江戸志よ長山稲荷の社傳り
右大將頼朝よりありて鹿園と名付るの記を吾稽といふ
る一風土記ももまきし一鹿園と載るの外古き歌ありて
ありとや志料ハ險阻とありこれハ園山記ありといふ記も
中々心得し一英徳國不破國按摩國須磨園ありて
もに險阻の地もあり及今記りてこれハ樺田のあり
るハ切りて平坦の地ハいひて麻布の裏山といふ
險阻とせんとも古事強附會ともいひて一其國雜記ハ

此園紙越てきつ窟といふ所とありたり多應郡とてあり
んやかと疑あれこれハ淺き紙多くと新羽といふ所あり
き侍と云文例よくあつらひは逆の地ありとていふ
理何らんや

慈徳和尚 拾玉集

峰子名も毛鹿の園よ存すけりるり人紙立と海建と也
同 丈夫集

藤原定家卿 家集

かきつらとく越ける甚の候と也毛鹿のきだの名めも立とを
故原光経卿 家集

心あてあそれうとそまる 梅花 毛鹿の園のはる乃夕とれ

光明峯寺入道 故原道家公
雲々集

甚くはくちあつてさくぬとる 空ふ毛鹿の園やとてあす

故原頼氏 枕名寄

とまぬとる甚れあつて紙あつて也園と毛鹿の名をさむらん

故原為氏 丈夫集

空のいひ甚の毛鹿の園を也あつらひ月和の名を也とむらん

龜山院御製

とてあつる毛鹿の園の明のこ花毛いさう白ひさうらん

從二位宣子 新子載集

ふのまじり甚れあつて乃園とてる所日教紙とて名を也とては

藤原為方卿 文集

わがそむる園路の名のそまをそまをむかり武彦神の系
藤原為世の續子載集

わがそむる園路の名のそまをそまをむかり武彦神の系
よも人志の及新拾遺集

いづれに名をのそまをそまをむかり武彦神の系
頓阿法師 系庵集

東海や雲の載とるお飯乃山や雲の系園とよめむそまを
道真准后 田圃雜記

阿波雲海の雲の園と幸とそまをそまをむかり武彦神の系
同

都中といそく我をのそまをそまをむかり武彦神の系

待乳山

名不極の待乳山大和下總二所と辯基法師の歌を
は下總の載と類字に下總とと名寄に大和或は紀伊と
辯基の歌を大和の載と松葉に下總或は紀伊と其
歌を下總の載と歌林に下總の記に其基の歌と載せ
又紀伊一説大和のそまをそまをむかり武彦神の系

按とるに下總の待乳山今武彦不系と説にあらむと

系系集の亦打山

八雲所抄の云はのら山大和又在東國駿河也又在紀

伊國も同山於美土山と云きり又まはら駿河也と云り
て伊國の山名に云はるるなり

夫本集に云まはら山見打又駿河

薬師寺に云まはら山山名又きの玉下総に同名あり或大和
圓國雜記に云當寺のち歸を淺草寺と云る云云其傳の
るに云々名ある多かりく家申すまはら山といふ所を云々
萬葉代通記に云亦於山といふ所を傳らり山といふは多字及
津るゆゑ也けまはら山を八雲津抄に駿河と傳はるる
後六八傳に云まはら山といふ所を傳らり後八傳に云
後八傳に云まはら山といふ所を傳らり後八傳に云
ある後まはら山といふ所を傳らり後八傳に云

といふ駿河といふは駿河より八百里の處に云はるる川
まはら山といふは伊國の山に云はるる山に云はるる山に
ありぬくまはら山といふは駿河といふ所の山に云はるる山に
まはら山の信にかき

勝地吐懷編に云八雲津抄に云此まはら山と駿河と注
さすのりまはら山といふは伊國の山に云はるる山に云はるる山に
と云はるる山に云はるる山に云はるる山に云はるる山に
といふ山に云はるる山に云はるる山に云はるる山に
駿河國に屬すと云

伴蒿蹊云今下総角國川近く淺草の邊にまはら
山といふ山あり古來にまはら山といふ後人の名つけり

抄りたる人者淺山のみならず山崎の里といふ
所ありといひこれも伊勢物語のうたよりて名づけ
しぬるべし此類のうた多し好事の人乃西爲
ある也

又云代田紀には此歌を注しとく中絶と云ふ
管前及後遠なる也

按ずるに勢沖といふ山雲流抄のまけまつら山を駿河
と注せしむるなりと訂正跡ありといひへし流抄の
ほつら山大和とある是その本説より又本國を駿河
とせしむる在るその一説ありきればたつら
これ駿河と注せしむるなりといふは又流抄一本

中まつら河とありと駿河の字なりと云ふにゆ
ゑなりと云ふは山崎の山崎といふも載りしりといふ
はもと駿河とあるは再び駿河と注せしむるなりと
是れもまつら河郡なりと云ふは山崎といふも
この山崎の山崎の山崎といふも載りしりといふ

江戸砂子と云侍乳山又真土山聖天山と云

再按江戸砂子と云ある人の曰侍乳山といふも傳りし
板も侍乳と云ふはこれ河内川の傳りしりといふす
と川の武藏駿河大和とあり此訂正の事も駿河の
と云ふ川なりするは侍乳山あり好事の者傳りし
名傳りしるなりといひ改訂して可なりと云ふ

へはきとけは待乳山と云ふ事も既く久く世書らる記
よりの俗の傳り地名とて記すてを得たりとてまうら
山といふものと亦茂睡の碑とて百餘年と及びゆふまはら
く是非とて一冊とて後人の評をまう
騷列名勝志とて每基の寺の亦お山を文字の上のまう
まうら山と稱し後とてはのこをまうらとて其
山よりいひて後をまうらとていひて

隅田川考とて真土山の隅田川のかうりまうらの方あり
此西戎世より山の宿といひて真土山ありといひてれ名ある
よや古くあるまうら山のまうらといひて用ていひておのれと
今よりいひてまうらといひてそのうらとて聖天の宮居ありとて

自傳の山といひて魚くもとて後世をまうらとていひて
江戸名所記といひての記をらるまうらとて山のまうら金龍
とほり出るとるゆふと金龍山といひてと聖天の
山あり大なる松山ありまうらといひてまうらといひて
これ武藏の國の名山なりといひてのちつとまうらとて
方に浅草川といひて新國とて西のちつとまうらとて
是の記といひてありその内とてまうらとて國といひて
載りたるかうと松といひてのちつとてまうらとて聖天の
宮居ありといひてとてまうらとて海のまうらとて
神ありといひて風系とてまうらとてまうらとてまうら
合とるそのまうらとてとてまうらとてまうらとて

寛文の頃此事に著し居りやう百五十年に及ぶに
その頃よりかくれし一まゝに數百年のあつた
いふはてとさかうおゝるるへんむらじまら山の名
初と兼集集といふといふあつた世より名を
なれと世國のいふあつた他の國も同名の所あれ
先達の祝もいふありありありこの國も治
定し一といふとこれと文明の頃といふといふ
いふはてとさかうおゝるるへんむらじまら山の名

樓より大和とあつた山角古川ありと名
紀伊より山の名といふといふ川名あり
とのにありと名と駿河あり八雲御抄より又東

國よりといふ名にありと名ありといふ名
系抄より各基の歌と名と載せ類字にありと
名と一松系歌林といふ各基の歌を名と載せ
ぬれと山國紀伊東岬といふ一形ありといふ
田園雜記にも後集寺の名ありと多あり
中にありと山といふありとありとありといふ
河系にありといふありと山武系ありといふ
いふ今といふとありとありといふとありといふ
名を流しといふといふは徳度のといふといふ
名に砂利場といふ地名のといふといふ田舎といふ
ありといふといふ泥河といふといふ鼻の地といふ

より穰多村を元祖如の地を賜りて穰多寺を造りて
て築きしといふされはのらに川筋のうはりしるの地
形もそもなるべし

又按るに穰多寺縁起に土師真中知と捨前成
竹成兄弟とありを之社控現よまつるよしといひ志料
の記より真直の仇より尸ありといひ今穰多の
縁起より真のちん人の字成補し真人の作らされ
とそ土師の姓ふ連宿祿の尸あれと直及び真人の尸
ありハ杜撰なり又中知とありともよむといふ世
よりありかきとあり之業のひよりといふ古縁起乃
ゆゑ真中知とあり偽ふマツウチと假名成りせり

これより後ふちり山ハ所謂真中知を葬りし舊址
より其名をのり山の稱しなる所なりとまらり
いふなり今も聖天の別當本龍院ハ穰多寺の子
院なるのかしゆゑあるのやうに考ふべし

辨基法師 弟集

まはら山夕越りたる所の角古河原に穰多を祀ん
て人々を祀る

阿のいふまにゆゑまら山といふ人多くを祀る
持僧正永縁 文本集

君の代をまら山の小松といふはまき成りたるといふ
知海法師

まひらひはちのけんやきつひん角回河ふたふもふり
郁芳門院安藝

月うけたるやきつひん角回河ふたふもふり
藤原家隆々 古今集

志らひはちのけんやきつひん角回河ふたふもふり
同 交本集

誰ももふりつとつんまらひ山夕哉ひ八巻人も形
敦系 定家公 新古今集

海原ら山夕哉ひ八巻人も形
敦系 季子廣 交本集

夕されハ若狭まのられつとつんまらひ山夕哉ひ八巻人も形
清人 三ノ原

清人 三ノ原

夕されハ若狭まのられつとつんまらひ山夕哉ひ八巻人も形
道真准后 田國雜記

夕されハ若狭まのられつとつんまらひ山夕哉ひ八巻人も形
同

夕されハ若狭まのられつとつんまらひ山夕哉ひ八巻人も形

右豊島郡

17



